

地域版

SASEBO 99 Talk
M Cafe

令和7年度 車座集会 意見交換内容

日時	令和7年7月9日(水)14時から
場所	大野地区コミュニティセンター 講堂
テーマ	①大野地区のまちづくりについて ・交通結節点指定を契機とした大野地区のまちづくりについて ・北部グラウンドの人工芝設置について ・高齢者が住みやすいまちづくりについて ②「コミュニティスクール」について ・小学生の登校支援について ・地域への子育て世代の参加のあり方について ・学校と地域の具体的な関わり方、地域が担う役割
出席者	地域参加者10名、市議会議員3名、市長ほか関係者4名 合計17名

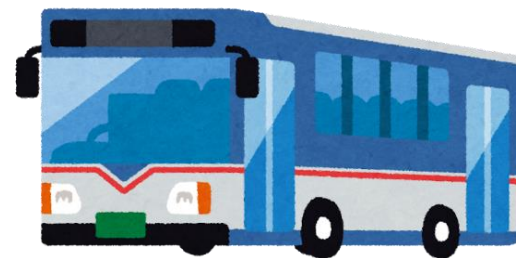
佐世保市 市民生活部
コミュニティ・協働推進課

令和7年度大野地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:大野地区のまちづくりについて(交通結節点指定を契機とした大野地区のまちづくりについて・高齢者が住みやすいまちづくりについて)

地域参加者

- 市の再編計画を導くため、バスの乗り換え拠点と、老朽化した大野支所・コミュニティセンターを、一つの施設として合築・整備することを提案する。利用者と行政の双方にとってメリットがある提案であり、この新しい拠点が、単なるバス乗り場や役所だけでなく「まちづくりの起爆剤」となると信じている。「市民にとってよし」「行政にとってよし」「地域経済にとってよし」の「三方よし」という理念を大切にしたい。この「三方よし」が揃う計画として進めてほしい。
- 大野はまめバスが運行して10年になる。山際の高齢者から喜ばれている。どうにかもう1台増やして地域で運営するかどうか、また運行方法も考えていかなければならないと思う。まめバスをよりよいものに変えていかないとと思うので、どうぞ市長よろしくお願いします。
- 高齢者や地域住民が住みやすいまちづくりをもう少し。地域としてWell-beingの在り方も検討・追及していいのではないか。やりがいや幸せ度や健康を振興していくのは、まちづくりにとっては大切だと思う。
また、高齢者や障がいをお持ちの方に、どうふうにして地域として情報提供するのか。交通難民や情報難民の支援を。
高齢者が住みやすいまちづくりは、地域の人々にとっても住みやすいまちづくりになると思う。



令和7年度大野地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:大野地区のまちづくりについて(交通結節点指定を契機とした大野地区のまちづくりについて・高齢者が住みやすいまちづくりについて)

地域未来共創部 次長

- 今年度から5年間の、佐世保市の地域公共交通計画というものを策定した。運転士不足に伴って、これまでの路線や便数を維持できなくなってきたため、今回計画の中で大野と早岐を大きな結節点として中心部の重複をできるだけ解消することで改善していく。

佐世保駅方面から上ってきたバスを大野車庫前、北部から来るバスを矢峰営業所で折り返す際の乗り降りの結節点がこの大野になり、この大野の結節点が北部地域の生活核を結ぶ主要なポイントでもあるのかなと考えている。

ここの結節点をより機能的にするために、大野車庫の方に運転士の待機場であったり休憩所を設けながら、可能な限り運行はここで展開できるような形を進めていこうと考えている。

市長

- 公共の足を確保するために、今回佐々町と連携して後期地域公共交通計画を策定した。次長が申し上げたとおり、重複している系統の効率化や、周辺の分割運行を計画している。そのひとつの大きな結節点として大野地区、早岐地区を選定している。

副会長からご提案いただいたように、大野地区にとっては、非常にいいまちづくりの機会だと私も感じている。いろいろな状況を鑑みながら、大野の結節点を活かした中でのまちづくりをこれから進めさせていただければ、「三方よし」というお話のとおり、市民の皆様方に安心できる住みよいまちを作っていただくためのひとつの方策として考えていかなければならないし、市としても効率的な結節点を生かしたまちづくりをしていきたいと思う。



令和7年度大野地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:大野地区のまちづくりについて(交通結節点指定を契機とした大野地区のまちづくりについて・高齢者が住みやすいまちづくりについて)

市長

- まめバスを大野地区の中で発展させていただいたことに、改めて感謝を申し上げたい。今度はこの大野地区の成功例を、ぜひ他の地域でも活用させていただきたい。
- 部会長からもお話があったように、結節点を活かしたまちづくりには高齢者の視点も必要。この場所で時間を有効に使ってもらえるようなまちづくりをしていく必要があるのではないかと思う。商業施設や医療施設の話がうまい具合に組み合わせれば、地域の皆様方が大野に集まってきて、生活の重要な場面に対応できる場所になるのではないかと思う。そうしたことを全体的に勘案しながら進めて行く必要がある。

地域参加者

- 私たちの提案を受けてもらってありがとうございます。大野地区自治協議会としても、この構造を具体化していくために、調査研究や周辺地域との連携を担う準備部会を設置しようかと考えている。私たち住民の準備が整ったら、市の担当部局と交通事業者等が、公式に協議できる場へのお力添えをいただきたい。

市長

- 非常にいいお考えだと思う。また皆さん方とお話し合いをしながら進めたいと思う。



令和7年度大野地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:大野地区のまちづくりについて(交通結節点指定を契機とした大野地区のまちづくりについて・高齢者が住みやすいまちづくりについて)

地域参加者

- 日常生活の中で、詐欺や特定商取引等いろいろあるが、高齢者や支援を必要とする人に対して私たちはどういう配慮をすればいいのか。消費者安全確保地域協議会というものがあるが、佐世保の進展具合がどうなのか、どういうふうにされているのかよくわからない。
大野地区では会長の許可を得て、高齢者が特殊詐欺等の被害にあわないように「暮らしの豆知識」を作った。障がい者と高齢者の周りの人たちが日常的に意識を持っていれば、いざという時に役立つかなと思って発行している。

市民生活部長

- 市民生活部の方でも、消費者相談などの出前講座等もご紹介もさせていただいている。



令和7年度大野地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:大野地区のまちづくりについて(北部グラウンドの人工芝設置について)

地域参加者

- 北部地区グラウンドは、非常に利便性のいい場所にあり、利用頻度が高い。県をみると、人工芝グラウンドがいろんなところでできているが、北部地区にはない。できれば利便性が高く、小中学校・高校が使いやすいところ、高齢者も使えるところで、人工芝の設置を検討していただきたい。



市長

- 今、市の方で全体的なスポーツ施設の再編計画を策定しようとしている。各地域が保有する運動施設をどのようにしていくか、ひとつひとつ精査しながら検討している。
人工芝のグラウンドが佐世保でなかなか見受けられないというお話は、実は各競技会、スポーツ団体からも直接いただいている。まだ策定というものは過程であるが、やはり人工芝機能を有したグラウンド等も整備する必要があると認識している。どう作っていくかは、これからスポーツ団体の皆様方や各地域の皆様方、市議会の皆様方とも相談しながら進めていきたい。



令和7年度大野地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:「コミュニティスクール」について(小学生の登校支援について)

地域参加者

- 全国的な例に漏れず、登校渋りや不登校など、学業に向かうのが困難な生徒が一定の割合いる。中学校でいろいろな子たちを見てきた中で、ひとつ有効だと思うのが、小学校の特に低学年に対する登校の支援。共働き世帯が増えて、親が子どもより早く家を出られる世帯も多く、自分だけでは学校に行けないお子さんが見られる状況がある。学校の先生からも、一緒に登校してもらえようような支援があったらと相談を受けることもあった。

もうひとつは、佐世保市がしてくださっている心の教室相談員。すごくいいと思っていて、先生方も有効な付き合い方ができていると思う。昼休みに一部屋開放していただいているが、心の相談員の先生も「小学校にもこういう部屋があったらいいね」と言われているし、PTAの支援で作っていただいた大野小学校の「ふれあいルーム」に行っていた新生から、中学校でも同じように話しに来てもいいかと聞かれることがあった。やはりそういう部屋の存在は、学校に行きたいと思う気持ちに繋がっているのではないかと思うので、できれば小学校の方もそういう力添えをしていただけたらいいなと実感している。

学校教育部長

- 校内教育支援センターは、教室に入ることのできない子どもが、一時的に別室で学習を進めることができるような環境をとということで設定したもので、他市町に先駆けて、本市で6年度に市内10校、20名の支援員を配置した。部会長には大野中学校でご活躍いただき、大きな成果を残しているという報告を受けている。大変感謝している。令和6年度、確かな成果があったと私共も認識していて、今後拡充を前向きに検討したいと思っており、小学校への配置も視野に入れていきたい。心の相談員については、令和7年度に2校増員した。こちらも一定の成果が見込まれているので、今後も更なる充実を目指していきたいと思っている。



令和7年度大野地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:「コミュニティスクール」について(地域への子育て世代の参加のあり方について・学校と地域の具体的な関わり方、地域が担う役割)

地域参加者

- 大野ではまだ具体的な動きはないが、佐世保市のいくつかの地域で、すでにコミュニティスクールの推進協議会が立ち上がっているところがあると思う。各家庭へのサポートが必要なのか、学校の先生の負担に関してのサポートも必要ではないかなど、今地域としてどう学校に携わっていったらいいのかと考える。先生方と地域と保護者が、連携して情報交換を密にしないと、学校の様子が地域にも伝わってこない。そうすると、地域としても学校をどうサポートしていくか。各校自体でしたらいいのか。子どもたち各家庭にしたらいいのか。自治協議会として大野地区全体でというと非常に難しいので、小規模単位の町内会であったりが非常に大事になってくるのかなと思う。すでにコミュニティスクールをしているところで、うまくやっているという良い事例があれば、ぜひ教えていただきたい。

学校教育部長

- コミュニティスクールは、学校運営協議会に3つの権限を与えることで、より当事者意識を持って、地域と共にある学校づくりに、地域の力をお借りしながら寄与していただきたいという考え方のもので、本市では現在16地区、22校において導入がなされている。この学校運営協議会の設置については、学校と私共の方で手続きをする流れになるが、説明などが必要であれば、私共で地域の方に伺わせていただき、丁寧にご説明させていただきたい。
小学校においては、設置に向けて検討しているというお話も伺っている。
成功例として、ある学校では、子どものいない家庭を含めた地域のすべての家庭を対象にアンケートを実施し、「共育目標」を設定して、すべての住民と共有したり、学校運営協議会が学校だけでは解決困難な事案の解決に協力してくれているという事例がある。子どもの教育活動においても、地域の魅力的な人材が大きく関わることで、



令和7年度大野地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:「コミュニティスクール」について(地域への子育て世代の参加のあり方について・学校と地域の具体的な関わり方、地域が担う役割)

学校教育部長

より効果的で、質の高い教育が実現しているという報告もあっているし、子どもたちにとっての魅力として、地域の担い手としての自覚が高まるという指摘や、保護者にとっての魅力として「学校や地域への理解が深まる」、「人間関係を構築することができる」、「地域に見守られている安心感が高い」という声もある。



地域参加者

- 今後心の相談員も増えていき、センターも小学校に向けても考えていくということで、とても嬉しい。子どもたちの居場所というか、心の隙間を吐き出せるような場所が増えていって、勉強に向かえるような意欲が高められたらいいなと思う。
コミュニティスクールについて説明いただき、わからなかったことで腑に落ちた点があった。
1点確認で、「小学校で検討中」というのは、大野小学校が検討中と理解していいか。
- コミュニティスクールについて、少し理解が深まったかと思う。
学校支援協議会には数年前まで参加していた。正直に言うと意見交換だけで終わっていた。その中で具体的に何かやろうという取り組みができなかったところが反省点で、今後は地域として具体的に何か取り組み、みんなに発信していくことが大事だと思う。自治協議会としては、地域みんなでこのまちを見守っていくという意識を持ってもらえる方を1人でも増やしていく働きかけが大事。行政、地域、学校で協力して子どもたちを見守っていければ。



令和7年度大野地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:「コミュニティスクール」について(地域への子育て世代の参加のあり方について・学校と地域の具体的な関わり方、地域が担う役割)

学校教育部長

- おっしゃるとおり、大野小学校で今検討しているという回答をいただいている。

市長

- 学校、家庭、地域、それぞれが連携をしながら、共に子どもたちを健やかに育てていくことが必要。すでに小佐々のように、先行的にいろいろ取り組みをやっておられる地域もあって、佐世保でもそういう考え方が今また新たに地域で出てきているというのは非常に嬉しい。我々も教育委員会、地域の皆様方と共に、子どもをみんなで育てていくという思いを持っていただきながら、これから教育の充実を図っていきたい。

地域参加者

- 私たちが現役の頃は、地域で子ども会、中学校、地域の子ども会の役員がいて、定期的に活動があって、みんな親と子どもが繋がっていた。今は地域の子ども会の活動が少なくなって、親と子との連携が薄くなって寂しい感じがする。もうちょっと関係者だけでなく、お父さんお母さんのみなどで、地域で共に子どもたちを育てて見守っていききたいというのが本音。
- 自分の子育て時代は「町内で」というのが多かったが、今は親の町内行事等への参加が少ない。自分の町内は、3年程前から世代交代ということで、役員に若い人を集めようと努力した。若い人が1人でも入れば、その人が若い人・子どもを連れてくる。去年頃からイベントに若い人が多いと感じるようになった。自治協議会も頑張るが、やはり町内の関わりがまず第一。声掛けなど、日頃から子どもたちに関わるのがあった方がいいと思う。



令和7年度大野地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:「コミュニティスクール」について(地域への子育て世代の参加のあり方について・学校と地域の具体的な関わり方、地域が担う役割)

地域参加者

- 昔は隣近所・町内で子ども会があって、町内の人 はみんな知っているような感じだったが、最近は 希薄になってきて参加したくないという考えの人が 多くなったのではないかと思う。
- 会長や副会長が、いろいろな会を運営されていたのを見ていた。今、自分たちの世代が先頭に立って地区の行事等をさせてもらっている。副会長が言われたように、世代交代というのを会長・副会長がきちっとしてくださったので、今自分たちもものすごくやりやすいし、サポートもしていただいている。そのおかげでいろんな行事の時には自分たち世代の方も皆出てきて、いろいろな行事がうまくまわってくれればいいなという気持ちで地区の行事に参加させていただいている。地元の 大野がずっと栄えていくことがいちばんかなと思って、役職をさせていただいている。

市長

- どの町内会も、役員の成り手不足で困っていると聞く。役員の負担を軽減する必要があると同時に、若い世代に入ってもらうためには、子どもを核とした活動がひとつ重要なカギを握っているんじゃないかと思う。子どもの活動を通じて、若い世代、そしてまた高齢者の皆様というように世代を超えて集まる。その皆さんが町内に関わることによって、次の担い手として育ててもらおうというようになるのでは。各地域で子どもの活動についてのサポートを、町内会や自治協議会の中でしていただいているが、特に大野地区は、おやじの会の皆さん方、若い世代も含めていろいろな方が交流をしながらやっていただいている、大変頼もしく拝見している。世代の交流と役員の育成をどうしていくかを、これから考えていく必要がある。災害時や病気・困ったとき、防犯の面で町内会はひとつのセーフティネットであり、存在意義は十分にあると思う。そうしたことを、行政としても市民の皆様方に伝えながら、地域のコミュニテ



令和7年度大野地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:「コミュニティスクール」について(地域への子育て世代の参加のあり方について・学校と地域の具体的な関わり方、地域が担う役割)

市長

ィを守っていききたいと思う。大野地区の皆様方には、ある種、モデル的なところもあるので、多くの皆様方にそういったことをお伝えいただいたりしていただければありがたい。

市民生活部長

- (若い世代、子育て世代への)エールですね。

地域参加者

- 我々年寄りには放任ですくすく育った世代。今の子育てに関して相談されてもわからない。相談されても反対に悪口やわけのわからないことしか言わないので、年寄りに相談せず若い人でよく話し合っ頑張って子育てしていただきたい。協力はする。

市長

- これからまちづくりをする中、コミュニティを維持していく中で大変なご苦労も多い中、皆様方が日々ご活躍いただいていることに、改めて敬意と感謝を申し上げたい。
会長、一生懸命協力をしていただけるようなので、ぜひ会長を中心として、ますます自治協議会が発展されることを心からお祈り申し上げます。市としても、大野地区自治協議会と一体となって、これから頑張りたい。



令和7年度大野地区 意見交換内容(要旨)

